

# 市駅まちづくり通信 02

## 第2回まちづくりワークショップ開催！

第2号 2015.3.3

発行：市駅まちづくり実行会議

編集：和歌山大学観光学部永瀬研究室

お待たせしました！待望のまちづくり通信第2号を発刊します。1月30日に城北連絡所にて、第2回まちづくりワークショップが開催されました。第1回ワークショップでは、各グループで市駅周辺の課題と資源について議論しましたが、今回はテーマごとに分かれ、それぞれが抱えている課題と改善案を話し合いました。テーマを絞ったことで、より深い議論となりました。

### 当日のプログラム

今回は、昨年11月の第1回ワークショップの結果を踏まえながら、「生活」、「観光」、「景観」、「交通」の4つの班に分かれ、現在の課題を整理するとともに、解決に向けた具体的なまちづくりのアイデアについて話し合いました。議論した結果、複数のテーマに共通する課題や提案もたくさん挙げられており、各テーマが互いに密接に関わっていることが分かりました。

#### ◎第1部 前回のまとめ

19:00～ 開会のあいさつ

19:15～ 市駅周辺の現状・第1回ワークショップの振り返り

19:25～ グループワーク1：まちづくりの課題

#### ◎第2部 ワークショップ

19:50～ グループワーク2：まちづくりの具体的なアイデア

20:05～ 発表内容まとめ

20:15～ 全体発表

### ワークショップの意見

各班の話し合いで出された主な意見を紹介します。

#### 【生活班】

##### 課題

- ▶市駅付近で買い物できる場所が少なく情報もない
- ▶高齢化と若者の減少が発展の妨げになっている
- ▶商店街でシャッターの閉まった店が目立ち活気がない
- ▶子供が安全に遊べる場所が少なくなっている
- ▶地域住民が集える場所がない

##### 提案

- ▷市駅ビルの空きスペースの利用
- ▷Twitter等のSNSを活用した情報共有・発信
- ▷市駅広場前で継続的に移動カフェや屋台などを展開
- ▷住民による植物の手入れ・清掃
- ▷住民の声を聞く仕組みをつくる
- ▷住民の集う場所の創設
- ▷Wi-Fi利用エリア拡大
- ▷若者の発想によるまちづくり
- ▷若者の起業のためのプレゼン実施



#### 【観光班】

##### 課題

- ▶外国人観光客を呼び込めていない
- ▶道路、花壇が整備されていない
- ▶和歌山城からの動線の整備が必要
- ▶市駅が加太、和歌浦への玄関口として機能していない
- ▶市駅前の景観がくたびれすぎている

##### 提案

- ▷わかりやすい観光マップ・案内板の設置
- ▷図書館に長時間滞在できるようなカフェを設ける
- ▷駅前に飲食店、くつろげるスポットをつくる
- ▷朝市、夜市を定期的に催す
- ▷公共交通の活性化（路面電車の復活）
- ▷自転車専用レーンの設置
- ▷歩きながら歴史と文化を感じられるまち歩きルートづくり
- ▷市駅でプロジェクションマッピング



#### 【景観班】

##### 課題

- ▶駅から和歌山城が見えない
- ▶市駅ビル地下も含め、飲食店が少なすぎる
- ▶アーケードが低くて汚い。空き店舗が目立っている
- ▶市堀川が建物で遮られて見えにくい
- ▶地主との土地利用の調整が難しい

##### 提案

- ▷市駅から紀ノ川にアクセスしやすい動線を確保する
- ▷紀ノ川沿いに散歩道をつくる
- ▷駅前通りを公園化し、ピオトープを設ける
- ▷駅前通りの景観ルールをつくる
- ▷アーケードを撤去する
- ▷商店主と地主との話し合いの場
- ▷市駅らしさ（城、市堀川など）の追求
- ▷市駅を中心とし、城、ぶらくり丁、紀ノ川を観光の軸にする



#### 【交通班】

##### 課題

- ▶どこに行く系統のバスなのかわかりにくい
- ▶バスの本数が少ない。停留所から駅までの接続が悪い
- ▶ロータリーの流れが悪い
- ▶和歌山市駅とJR和歌山駅間の電車の本数が少ない
- ▶市駅前の交通量や歩行者数に対して信号がすごく長い

##### 提案

- ▷バスの乗り場、降り場を駅ビル近くに1つにまとめる。
- ▷横断歩道の信号の待ち時間の短縮
- ▷バス・タクシー・一般車の昇降所を明確に区別し、案内標識等をわかりやすくし駅前を整備する
- ▷スルッと関西3デイパスのような市内を1日乗り放題できる仕組みをつくる
- ▷水辺を整備し、市駅から和歌山城まで楽しめるようにする



# ワークショップのまとめ

## 生活

課題として、市駅周辺には買い物できる場所の情報が少ないため、市駅に行くことがないという意見や、城北公園など憩いの場が減っているなどの声もありました。提案としては、住民による植物の手入れや清掃、SNSを活用した情報発信、空き店舗などを活用したイベントの開催や、若者の起業者を呼び込むためのプレゼンの実施といったアイデアも出されました。

## 観光

観光客向けの情報が不足しているため、市駅が加太・和歌浦への玄関口になっていない、和歌山城を含めた歴史スポットへの動線が整備されていないという課題があげられました。提案としては、関西空港からの直通列車の運行、わかりやすい観光マップの設置、市駅でのプロジェクトの実施など、他の地域にない独自性を打ち出すアイデアも出されました。

## 景観

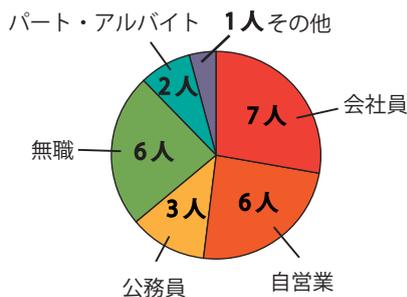
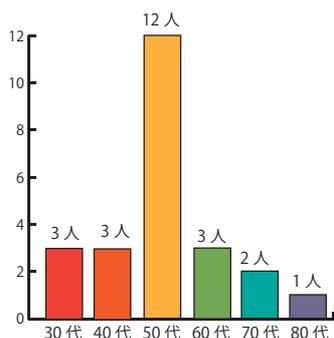
市駅周辺にある和歌山城や市堀川などの資源が、空きビルなどの建物や古いアーケードにより見えないことが大きな課題として挙げられました。提案として、観光を和城、ぶらくり丁なども含む広い範囲で捉え、景観形成のためのアーケード撤去や、駅前通り公園化などのハード整備とともに、商店主と地主との話し合いや駅前通りの景観ルールづくりが必要という意見が出されました。

## 交通

課題としてはバスの降り場から駅までが遠い、一般車・タクシー用のロータリーの流れが悪い、紀ノ川以北から市駅へのアクセスが悪いなどといった点が挙げられました。提案としては、市堀川を活用し、和歌山城・ぶらくり丁と市駅を結ぶ動線づくりや、市内の公共交通機関を1日乗り放題できる統一きっぷの発売などのほか、今回も路面電車の復活を望む声がありました。

## 参加者の構成

ワークショップの参加者は39人（大学関係者12人含む）でした。終了後、そのうち25人の方々にアンケートに答えていただくことができました。



回答者の内訳は、男性13人、女性6人（無回答6人）、年代別では30代、40代がともに3人、50代12人、60代3人、70代以上が3人で、前回と比べ30代の方が大きく減り50代の方が増えました。また職業別でも前は自営業の方の比率が多かったのに対し、会社員の方の割合が増えました。前回と比べると年齢層にやや偏りが出ましたが、若い世代の方々にも参加していただき、具体的なアイデアに向けて議論を重ねていきたいですね。

また今回のワークショップの様子は、ニュース和歌山とテレビ和歌山でも取り上げていただくことができました。

## 参加者の声

アンケートでいただいたコメントの一部をご紹介します。住民の意識を高めることが大切という声や、出来ることから実行すべきという声もありました！

「企業、行政、市民、和大的学生がそれぞれ受け身ではなく、各自が主体となることが大切だ。」（30代女性）

「和歌山県、市全体に危機が迫っていることを認識し、解決の手だてをはかるきっかけになれば良い。」（60代）

「和歌山駅を意識したら、皆でかつての栄えたまちを取り戻そうと思った。」（50代）

「和歌山の人は外の人から見られる経験が少ないので、誰かに見られているという意識をつくる。」（50代女性）

「ビジョンも大事だが、出来ることから動き出した方が良い。」（40代）

「皆さんが考えることは大体同じで、それらの提案（店舗や公園など）を実行していくきっかけになればよい。」（30代男性）

「住民組織をどのようにつくっていったらよいか、そのために今回のような取り組みがとても大事。」（60代女性）

「お年寄りや障害のある方が利用できるベンチ等を設置すべき。」（60代女性）

「意見を取り入れたシュミレーションタウンを模型・CGなどで再現してみても良いのでは？」（50代男性）

「景観のテーマは難しかった。紀淡海峡実現の看板が景観を悪くしている。市内観光案内に看板を変えるべき。」（50代）

「市駅周辺に関心のある人たちがこのように集まって意見を交換することはとても素晴らしい。」（60代女性）

「高齢者が元気になるまちづくりをしていくとよい。」（60代女性）

## 今後の予定

◎第3回ワークショップ  
4月上旬に開催予定です。  
日時・場所等の詳細は後日  
チラシ等でご案内します！

## ◎孫市まつり開催！

日時：3月29日（日）11時～16時  
場所：本願寺鷲森別院およびその周辺  
鉄砲演武や野外劇などイベント  
盛りだくさん！

## 編集後記

少々遅くなりましたが、無事にまちづくり通信第2号を発行することができました。まずはワークショップ参加者の皆さまにお礼申し上げます。今回のアイデアを皆さんと共に深め、具体案として実現していましょ！